

科目名	タンパク質工学		英文表記	Protein Engineering		平成23年3月4日		
科目コード	5409							
教員名：田邊俊朗 技術職員名：					作成			
対象学科／専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
生物資源工学科			5年	選	履修	2単位	講義	後期
目標 及び 評価方法	目標項目			評価方法及びその割合				
	①タンパク質の構造に基づいた機能制御法について理解する。			①タンパク質の構造と機能の関連に基づいた機能制御法についての知識を問う試験を行い、その答案内容で理解度を評価する。(50%)				
	②化学合成や遺伝子工学によるタンパク質変異体の作製法を学ぶ。			②タンパク質変異体の作製法について試験を行い、その結果から理解度を評価する。(25%)				
	③生物の代謝を制御することによる物質生産法を学ぶ。			③代謝制御法と物質生産法について試験し、答案の記述内容から評価する。(20%)				
			中間試験1回、定期試験1回を行う。また、普段の学習・理解を重視し、理解度確認試験2回を行う。					
高専 目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称		生物資源工学	
	○		◎	(在)	JABEEプログラム教育目標		A-3, B-1	
授業概要、方針、履修上の注意	生物機能の高度利用に必要なタンパク質工学的手法や酵素機能の制御および細胞内の代謝制御による物質生産法について講義する。講義内容に深く関連した文献購読を取り入れる。							
教科書・教材	教材：教員自作プリント、パワーポイントなどプレゼン資料 参考図書：タンパク質VIIタンパク質工学、蛋白質工学概論、タンパク質工学の基礎 (キーワード：タンパク質工学、代謝制御、物質生産)							
授 業 計 画								
回次	授 業 項 目	時間	授 業 内 容				予 習 項 目	
1	タンパク質工学とは	4	タンパク質工学を概論的に理解する。				タンパク質工学	
2	アミノ酸の性質・タンパク質の構造と機能	4	分子設計に必要な基礎事項を学ぶ。				生化学と生物工学	
3	分子遺伝学概説	4	機能変化に必須となる分子遺伝学の基礎を理解する。				遺伝子工学	
4	確認試験[1]、組換えタンパクの発現	4	遺伝子の発現とタンパク質の精製について学ぶ。				遺伝子工学と生物工学	
5	遺伝子操作概説	4	基礎的な遺伝子操作法を学ぶ。				組換え技術	
6	DNAへの変異導入法	4	様々なDNA変異導入法を理解する。				部位特異的突然変異	
7	タンパク質の構造と機能の解析	4	タンパク質の構造から機能を解析する手法を学ぶ。				X線結晶構造解析	
8	中間試験[2]、タンパク質改変法1	4	基質特異性・結合特異性などの変換法を理解する。				リゾチーム	
9	タンパク質改変法2	4	機能の導入・安定性付与などについて学ぶ。				アミラーゼ	
10	タンパク質改変法3	4	膜タンパク質改変の実際を学ぶ。				膜タンパク質	
11	タンパク質改変法4	4	ウイルスタンパク質の改変について学ぶ。				プロテアーゼ	
12	確認試験2[1]、構造データベース	4	構造データベースを分子設計に生かす手法を理解する。				構造データベースの操作	
13	非天然型アミノ酸の導入	4	天然には存在し得ないタンパク質の合成法を				人工タンパク質	
14	抗体酵素	4	細胞工学的手法による機能改変法を学ぶ。				抗体とは	
15	細胞外タンパク質合成	4	生体を用いないタンパク質生産法を学ぶ。				市販細胞外タンパク質合成	
期末	期末試験	[1]						
学習時間合計			60	実時間			50	
学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など） 記入不要→この科目は履修形態のため、この欄の記入は不要								

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(50分=1、100分=2)